

## 「はむらの授業指針」子どもの視点③

### 教材が魅力的である

子どもたちにとって学ぶ意欲のわく授業の実現に、教材は重要な役割を果たします。優れた教材は、**知的好奇心**を喚起し、**探究のしがい**を実感させます。

ある県で、初任者のA先生による小学校4年生の国語の授業が公開されました。「話すこと・聞くこと」に関する言語能力の育成をねらった、小グループの話合いの授業です。



授業の冒頭、授業者が提示した話題は、「妖怪について」でした。当時、「ゲゲゲの鬼太郎」のリバイバル版が映画館で放映されていたこと、給食中に「朝の連続テレビ小説」の話題で盛り上がっていた班が複数あったことなどから、児童が興味・関心をもって話し合うに違いないと確信したそうです。

授業者が話題について説明を行うと、一部の男子児童から「ヤッター！」という歓声が上がりました。しかし、大半の児童は表情を曇らせ、うつむいてしまいました。その中の一人、ある女子児童が「チェッ」と舌打ちをしたのをA先生は見逃しませんでした。彼女は国語が得意であり、いつも授業で質の高い意見を述べていたからです。

話合いが低調に終わったのは、言うまでもありません。

話合いの話題は、大切な教材の一つです。私たちが子どもに教材を提供するに当たり、その教材が彼らの**知的好奇心**を喚起し、**探究のしがい**のあるものであるかどうか、十分吟味することが必要です。話合いの話題であれば、子どもたちが「**根拠に基づく事実**」を基に各自の考えを述べ合えることが、選定基準の一つです。

なお、教材の魅力は、その取扱い方次第で大きく変わります。日々、教材研究が求められるゆえんです。

### 大胆にして緻密

京セラ名誉会長 稲盛和夫

人間には、大きく分けて、緻密で繊細できちょうめんな内気な人と、豪快で大胆で外向的な人の二つのタイプがあります。私は、仕事をしていくには、この両面を合わせ持つことが必要だと考えています。

出典：稲盛和夫著「心を高める、経営を伸ばす」（PHP研究所）

※ 大胆さと緻密さ、両面を兼ね備えたいものです。